

1. 評価結果(概要表)

作成日 平成19年7月23日

【評価実施概要】

事業所番号	047510101028		
法人名	社会福祉法人東北福祉会		
事業所名	せんだんの里国見ヶ丘3丁目グループホーム		
所在地 (電話番号)	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘3丁目146-2 (電話) 022-303-7332		
評価機関名	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会		
所在地	宮城県仙台市青葉区五橋2丁目12-2		
訪問調査日	平成19年7月4日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成19年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	9 人	常勤	9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) 単独	(新築) / 改築
建物構造	木造り	
	1階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	利用者間の交流に役 又は1日当たり	おやつ	円
		1,100円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 人	男性	0 人	女性	8 人	
要介護1	1 人	要介護2	3 人			
要介護3	1 人	要介護4	3 人			
要介護5	0 人	要支援2	0 人			
年齢	平均	85.5 歳	最低	83 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

14	桜ヶ丘クリニック・佐藤病院・徳洲会病院・泉整形外科病院・通信病院など
----	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の一角に位置し、ホームはデイサービスセンターと隣接している。近辺には同法人の運営する介護老人福祉施設をはじめ複数の事業所があり、ホーム単独の取組みの他に、他事業所との合同での取組みも多く見受けられた。また、「明るく・楽しく・元気よく」というホームの「家訓」を入居者とホーム職員が大切にしており、入居者のおだやかな暮らしづくりがうかがえた。ホーム職員と利用者は一緒に過ごしながら共に支えあう関係づくりがなされているように感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回グループホームの外部評価で要改善と評価された「緊急時の手当」や「市町村との関わり」について、改善計画が立てられ新たな取組みがなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	外部評価の実施にあたっては、ホームに関わる職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議が2ヵ月に1回開催され、外部評価の報告を行うとともに、参加メンバーである民生委員や地区社会福祉協議会会長や地域包括支援センター職員からサービスや評価結果についての意見を聴取する取組みがなされている。また、今後避難訓練を地域住民の参加協力を得て取り組んでいくことについても、討議内容に加えていくことが検討されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が訪ねてきた機会をとらえて、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝えるとともに、月1回は近況報告を文書にて行っている。また、玄関先には相談窓口が掲示され、面会時等家族から意見を聴取しているが、ホーム利用者の家族が感じたちょっとした疑問や運営に関する意見について、より積極的にホームの取組みを検討したり、家族へ説明する取組みが不足している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りや地域のボランティアグループが行う食事会へ参加したり、併設施設を地域住民に開放したフリーマーケットの開催等の交流行事を行うほか、地域住民の一員として町内会に加入し、月1回の町内清掃や外出時の交流など日常的な取組みがなされている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取組を期待したい項目

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘3丁目146-2 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	「明るく・楽しく・元気よく」をホーム独自の理念として、運営規定で定められている地域との結び付きや、地域交流の取組みの中心に位置付けられている。また、利用者やホームの状況の変化に応じて現状にあった理念の検討が1年に1回以上行われている。		
2	2	理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、1ヵ月に1回開催されるケアカンファレンスや日常的な職員間の話の中で意識付けられており、日々のケアの場面において、言葉かけや態度として表れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや地域のボランティアグループが行う食事会への参加をしたり、併設施設を地域住民に開放したフリーマーケットの開催等の交流行事を行うほか、地域住民の一員として町内会に加入し、月1回の町内清掃や外出時の交流など日常的な取り組みがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価での要改善点となった利用者が怪我等を負ったときの緊急時の手当についての研修を企画するなど、改善計画を立てその実施に取り組んでいる。また、外部評価の実施にあたっては、ホームに関わる職員全員で自己評価に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が2ヵ月に1回開催され、外部評価の報告を行うとともに、参加メンバーである民生委員や地区社会福祉協議会会長や地域包括支援センター職員からサービスや評価結果についての意見を聴取する取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症高齢者を抱える家族の会と仙台市高齢企画課が行う集会の内容について、市担当者から相談を受け、内容を協議すると共に、集会では認知症高齢者ケアについて発表や意見交換を行っているが、市町村担当者に対し、グループホームを理解・支援してもらう働き掛けがなされていない。		事業を行なっていく上で生じる課題解決のために、介護保険の保険者であり、市民福祉を推進する立場にある市町村担当者に事業の実態を理解してもらう取り組みが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が訪ねてきた機会をとらえて、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝えるとともに、月1回は近況報告を文書にて行っている。金銭管理を自分で行っている入居者については、その出納をレシートを添付して行っている。ホームでの活動や利用者の様子等を掲載した広報誌の定期発行(6、9、12、3月の年4回)に取り組んでいるところである。		金銭管理を自分で行っている利用者については、月1回レシートを添付して報告を行なっているが、自己管理の他に法人本部が管理を行なう預かり金があり、これについての報告は3ヶ月毎に行なうことになっているため毎月の報告が望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に相談窓口が掲示され、面会時等家族から意見を聴取しているが、ホーム利用者の家族が感じたちょっとした疑問や運営に関する意見について、より積極的にホームの取組みを検討したり、家族へ説明する取組みが不足している。		利用者の家族のちょっとした疑問や意見をホームの運営に積極的に活かしていくことや、ホームでの取組みや職員間の話し合いの内容の詳細について利用者の家族へ説明していくといった観点から、家族会を設ける等の取組みが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者とのなじみの関係を重視した人事異動への配慮がなされている。また、一人ひとりのケアの中心となる担当は、主と副と2名体制でおこなっており、職員が代わることでの利用者への影響を最小限に抑えるような取組みがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取組 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム職員は法人内の勉強会の委員(リスクマネジメントや食事提供、実習生の受入等サービス提供に関わるテーマ毎に分かれている)になっており、その中の協議内容をホーム内でのケアカンファレンスやミーティングでホーム職員へ伝達したり、実践に活かす取組みがあり、日常的に学ぶことが推奨されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	宮城県グループホーム連絡協議会に加入し、ホーム職員が会主催の研修に参加したり、同業者間の交流に役立てている。また、近辺の同法人が運営する他事業所での職員実習を行っていく予定である。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	なじみながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と十分に話し合いながら、入所する前に見学や体験利用といったかたちでホームで短時間でも過ごしていただく等、利用者ご本人にあった利用開始の調整が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	昔ながらの調理方法や畑づくり、草花の名前、戦争の話など、ホーム職員が利用者から学ぶ場面があり、共に支えあう関係づくりがなされている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ご本人が暮らし方の希望を表しやすい声かけを行い、意向の把握につとめている。また、家族からも意見をもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、ホーム職員の他、同法人内の管理栄養士や作業療法士とも連携し、利用者一人ひとりに個別具体的な介護計画が作成されている。また、介護計画は家族の同意を得た上で交付されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などが評価され、評価に基づいた計画が作成されているが、定期的見直し期間が6ヶ月に1回となっており、判断基準を満たしていない。		介護計画の3ヶ月に1回の定期的な見直しが求められる。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の要望に応じた、日常生活に関わる多様な支援がなされている。また、ホームでの生活の中で利用者一人ひとりの外出行事等へのより具体的な要望の把握に取り組んでいく予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関に受診できるような支援がなされ、利用者に必要な医療についてホームと医療機関、家族による連携がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等及びかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の態度はやさしく穏やかで、さりげないケアが実践されている。また、プライバシーへの配慮や記録の保管等の個人情報の取扱いについての取り決めについて、全ての職員が理解している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	起床、入浴、食事等が一人ひとりのペースで行えるような、穏やかで柔軟な対応がなされている。また、入居者との朝食での会話をその日のホームの活動に活かしている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの庭で採れた食材も使われ、食事は和やかな雰囲気できりげないサポートがなされている。また、利用者と職員が共同で調理や後片付けが行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活習慣や希望に合わせた入浴が毎日できるような支援がなされている。また、入浴を拒む方へは外出をして気分転換等を図りながら声がけを行い入浴していただくような支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や歌、菜園の世話など、利用者一人ひとりが楽しみや役割を持ち生活する支援がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	閉じこもりにならないように、日常生活の中で散歩や買い物等の外出機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	利用者の外出傾向を把握しており、日中は自由に出入りができるように鍵は掛けられていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	災害時のマニュアルが作成され、夜間帯を含む防災訓練が年2回実施されている。非常用の食料等は近辺の同法人が運営する施設の倉庫に保存されている。		避難訓練は運営会議の場等を活用して、地域住民の参加協力を得て行ことが望まれる。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好、食事摂取量が把握されている。水分摂取量の把握については主治医が必要性を判断した場合等、注意が必要な方へのみの対応である。また、近辺同法人の運営する施設の管理栄養士によるホームの食事、献立等についての勉強会が1ヵ月毎に行われ、その中で助言を受けている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさやテレビの音量、温度の調節が適切に行われ、時計や暦も見やすい場所に設置されている。また、季節に合わせた花や壁飾りがさりげなく飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスや思い出の品が持ち込まれるよう、働きかけがなされている。		